

**(件名) 極東連邦大学について**

今回のレポートは、ロシア極東で最も古い伝統を持つ大学であり、北海道とも縁の深い極東連邦大学について紹介します。

極東連邦大学は、19世紀の終わりにウラジオストク市に設置された東洋研究所を基礎としており、1899年の設立後、1920年には東洋学院、歴史・文献学部、人文学部を持ついくつかの教育機関が統合されました。現在では、科学、人文科学、文化・芸術分野等の9つの学院から成り、各学院が学部から大学院までの教育を担っています。現在の学生数はおよそ23,000人で、また、3,000人以上の留学生在籍しています。中でも、極東の中心都市として、中国や日本、アジア太平洋地域の関わりを研究する東洋学部が有名で、そこには日本学科もあり、200名以上の学生が日本語や日本の文化、経済などを学んでいます。

同大学のキャンパスは、以前は市内の中心部にありましたが、現在はそのほとんどが市内中心部から車で1時間ほどのルースキー島にあります。2012年にウラジオストク市で開催されたAPECサミットの会場として建設された施設を、翌年から大学のキャンパスとして活用しているものです。キャンパスの敷地内には建物以外に公園、噴水、多数の競技場、テニスコートなどが設置され、休日には、大学内外から多くの人が訪れ、散歩やピクニックなどを楽しんでいます。また、同大学は、毎年9月に開催されている東方経済フォーラムの会場にもなっています。

同大学の8つの分校のうちの一つが、古くからロシアとの関わりが深い街として知られている函館市にあります。1992年にウラジオストク市と函館市が姉妹都市提携を締結したことをきっかけに、国際的視野に立ったロシア関係のスペシャリスト育成を目的として、1994年に「ロシア極東連邦大学総合大学函館校」として設立されました。ここでは、日本人学生のために、ロシア語はもちろん、ロシアの文化や政治経済などの教育が行われており、ウラジオストク本校への留学も積極的に実施されています。

前述のとおり、極東連邦大学では分校も含めてさまざまな学生が学んでいます。当事務所の通訳スタッフは、同大学日本学科を卒業し、日本語も非常に堪能で、将来的には日本企業に就職することも考えているようです。

一方で、同大学には、外国人向けのロシア語教育コースも設置されており、日本人学生も学んでいます。このように、お互いの言語や文化に興味を持ち、学びながら交流を深めることで、将来の日ロ交流を担う人材、また両国の架け橋となる人材が増えることが期待されます。



(極東連邦大学校舎の外観)



(キャンパス内につくられた人工の滝)